

プレスリリース

2024年10月11日 国境なき医師団 (MSF)

レバノン: イスラエル軍の攻撃激化で医療施設の閉鎖続く――民間人と医療の保護を

レバノンへのイスラエル軍による激しい攻撃が続く中、空爆を受けている地域の医療施設は閉鎖を余儀なくされ、レバノン国内では人びとの医療アクセスが奪われている。同地で活動する国境なき医師団(MSF)も活動の一部中断を強いられてきた。MSFは、すべての紛争当事者に対し、レバノンの民間人、医療施設、医療従事者を保護し、人びとの緊急の医療アクセスを妨げないよう強く要請する。

2 週間で 50 人の救急隊員が犠牲に

国連人道問題調整事務所(OCHA)によると、10月1日現在、6つの病院と40の診療所が、戦闘の激化を理由に閉鎖を余儀なくされた。また、この2週間で、イスラエル軍の攻撃によって少なくとも50人の救急隊員の命が奪われた。これにより、レバノン保健省の統計では、昨年10月以降に死亡した医療従事者の総数は100人を超えた。

レバノンの MSF 緊急コーディネーター、フランソワ・ザンパリーニは、「支援を必要としている人び とのケアを確実に継続しなければなりません。 MSF はすべての当事者に対し、国際人道法を尊 重するよう求めます。 民間人、民間インフラ、 医療施設や医療関係者は攻撃の標的にしては ならず、安全が保証されなければなりません」と訴える。

イスラエルによる激しい空爆、MSF も活動を一時中断

MSF は現在、稼働可能な施設での医療提供を継続し、今後の医療ニーズ増加を見据えて活動規模の拡大を進めている。しかしこれまで空爆により活動の一部中断を強いられてきた。

ザンパリーニは、「攻撃の激しさ、道路の損傷、安全が保証されていないことを考慮すると、レバノンのすべての被災地が到達不可能となっています。医療と人道的なニーズが高まっているにもかかわらずです」と述べる。

先週、MSF はベイルート南郊にあるパレスチナ人難民キャンプ、ブルジバラジネにある診療所の 完全閉鎖を余儀なくされ、レバノン北東部のバールベック・ヘルメル県での活動も一時的に停止 した。これらはいずれも空爆の影響を強く受けている地域だ。医療施設の閉鎖により、当該地 域の弱い立場にある人びと、特に慢性疾患を抱える患者は、必要な医療を受けられなくなって



いる。

MSF は今週からヘルメルの診療所については部分的に再開し、症状やリスクに応じて、患者が 2~3 カ月分の薬を受け取れるようにすることができた。一方、南部のナバティー工県で MSF が 支援を計画し、医薬品と外傷キットを寄付した病院のひとつは、前線からわずか数キロしか離れておらず、10 月 5 日に攻撃を受け被災した。

紛争が激しいレバノン南部では、支援のニーズは高いものの医療スタッフの安全が保障されていないため、MSF もフル稼働できない状態が続いている。例えば、昨年 11 月以来、ナバティーエ県などイスラエルとの国境に近い南部地域では、MSF の移動診療チームが域内の診療所を支援してきたが、現在は活動停止を余儀なくされている。このチームは、かつては国境付近まで行くことができたが、現在は国境から北に約 50 キロ離れたサイダまでの活動に限られている。

悪化するレバノンの人道危機

紛争は、国内にすでに存在した危機的状況を悪化させている。レバノンの医療システムは、経済危機によって過重な負担を強いられ、多くの医療スタッフの国外流出をまねき、医療施設はひっ迫する状況が続いてきた。各地の診療所は、すでに能力の限界にあるが、国内避難民の増大する医療ニーズへの対応を迫られ、圧力は高まるばかりだ。

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)によると、レバノンにおける国内避難民の数は 100 万人を超え、その規模は、適切なシェルターを提供する国の対応能力を大幅に上回って いるという。 現在、国内の避難所の大半は劣悪な状況にある。 これに対し MSF は、ベイルート 県、山岳レバノン県、サイダ(南レバノン県)、トリポリ(北レバノン県)、ベッカー県、アッカール県など、国内各地に 12 の移動診療チームを配備。 診療および心理的サポートに加え、マットレス、衛生キット、温かい食事、清潔な水の提供を行っている。

MSF は 1976 年にレバノンで活動を開始。2000 年以降は中断することなく活動を続けている。

以上

本件に関するお問い合わせ先:

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当:舘 俊平、高橋哲子

携帯: 080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org https://www.msf.or.jp

メディア向け X(旧ツイッター)アカウント:@MSFJ_Press